



EHIME HOSPITAL NEWS

愛媛病院ニュース

2010

第19号

4月1日発行

題字: 故阿久津弘名誉院長

発行者: 愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛病院 発行責任者: 院長 西村一孝 <http://www.ehime-nh.go.jp>



菜の花畑（東温市見奈良）

3万5千㎡の畑に約300万本の菜の花が咲く。春には菜の花祭りが秋にはコスモス祭りが開催される。

も く じ Contents

医気軒昂	2
第5回 院内研究発表会	
SAS治療 更に加速	3
睡眠呼吸センター開設	
それでもまだ吸いますか？	3
禁煙外来紹介	
助っ人参上	4
東温市老人クラブが授業協力	
車椅子寄贈	4
ありがとうございました	
医療の輪	5
繋がる地域医療連携（くはた内科循環器科呼吸器科）	

活用してください	5
重症心身障害児(者)病棟パンフレット完成	
医療安全管理室だより 第18回	6
危険薬研修	
職場紹介	6
23病棟	
看護学校の頁 ～学び舎から～	7
第6回 卒業式	
ちょっと言い放し	7
外来診療担当医表	8

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

医 気軒昂

平成22年2月19日に恒例の院内研究発表会を開催いたしました。臨床研究部（院内標榜）が設置された平成16年の翌年から看護部発表会を愛媛病院全体の研究発表会に拡大して院内研究発表会という名称で続けていますが、早いもので今回で5回目となりました。今回は看護部から15題（外来関係2題、病棟関係8題、手術室1題、委員会・管理室関係4題）、医局から5題、薬剤科1題、検査科1題の合計22題の発表がありました。

看護部からの発表を中心に、薬剤に関する演題が4つで最も多く、栄養に関する演題が3つ、医療安全に関する演題が2つ、在宅医療に関する演題が2つありました。その他に看護技術の改善のための研究として、学生への看護技術指導のチェックリストを利用した改善、フットポンプ装置使用法の問題点、術前訪問パンフレットの作成、重症心身障害者の言語訓練、活動量計を用いた身体活動量の測定、褥瘡治療が紹介されました。現在診療の場で問題になっていることの調査研究・改善の試行ですので、さらに研究が進んで問題の解決にまで繋がることが望まれます。

検査科からは造影剤を用いた新しい超音波診断法が紹介され、医局からは肺結核死亡症例や圧迫包装薬包（PTP）誤嚥症例の検討結果の発表がありました。また、基礎的な研究として、経口糖尿病薬（pioglitazone）と脂質・RCT関連遺伝子発現・HDL比率との関係と、病棟内感染症流行を引き起こす病原体の検索についての発表がありました。造影超音波法は今後さらに普及することが期待されますし、PTP誤嚥は臨床上の注意が喚起されました。



第五回 院内研究発表会

国立病院機構各施設はそれぞれの地域での先駆的医療の導入や独自の臨床研究の展開が期待されています。医局からの最後の2題は独自性のある医学研究で、愛媛病院が全国施設の中心となって主導する臨床研究にまで発展することが望まれます。

今回の発表では、皆さんが慣れてきたこともあってほぼ予定時間どおりに進行することができました。質疑応答も活発で、有意義な討議ができたと考えます。今後もそれぞれの研究を更に発展させ、院外での学会発表や論文発表に結びつけてほしいと思います。

最後に今回も準備をしていただきました看護部、薬剤科、検査科、リハビリ、医局の皆さんに深謝いたします。

臨床研究部長・小児科 松田 俊二

発表演題一覧

I 群

- 転倒リスク評価法としての国立病院機構作成「転倒・転落アセスメントシート」の有用性
- 在宅酸素療法患者の酸素管理の実態
- 重症心身障害者の食餌療法の効果
- 重症心身障害者の内服与薬時に発生したヒヤリハットの状況
ーダブルチェック・バックチェックにおける比較ー
- 抗結核薬の服用を拒否する認知症患者への効果的な内服援助への検討
- チェックリストを使用した看護技術指導
ー学生評価からの検証ー

II 群

- 高齢者の内服自己管理を妨げる要因
ーヒヤリハット報告分析ー
- 術後患者が感じるフットポンプ装置による不快の実態
- 改善した術後訪問パンフレットの有効性の検証
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の退院後の栄養状態の現状

- 重症心身障害者における栄養状態と呼吸器感染症との関連についての検証
- 医療安全管理室の取り組み

III 群

- 重症心身障害者への言語訓練の強化が発語の明瞭度に及ぼす効果
- 活動量計を用いた自宅での身体活動量の評価
- 褥創の治癒率の変化
ー20年度との比較ー
- 病棟と在宅ケアを繋ぐ地域医療連携室
ー人工呼吸器装着患者の在宅療養支援ー
- インスリン注射に関する医療事故防止の取り組みと成果

IV 群

- 超音波造影剤の使用経験
- 死亡退院した肺結核症例の臨床的検討
- 当科における誤飲PTPへの対処方法と予防法
- コレステロール逆転送系（RCT）から見た経口糖尿病薬Pioglitazoneの効果
- 重心病棟における感染症の流行について

睡眠呼吸センター 開設

睡眠時無呼吸症候群（SAS sleep apnea syndrome）は睡眠中に無呼吸を繰り返す睡眠呼吸障害で、事務職男性の21%（58/275人）に認められた（2009年）と報告されています。日中の過剰な眠気が特徴的な症状で、診断には睡眠中の検査が必要です。無呼吸による低酸素血症や覚醒反応が確認されており、心脳血管疾患やメタボリック症候群（肥満、高血圧、高脂血症、糖尿病）への悪影響が指摘されています。また、睡眠不足による交通事故や産業事故のリスクの増大や仕事効率の低下が社会的損失（年間3兆5千億円以上）にもなっており、非常に注目の高い、重要な病気です。



ミーティング中のスタッフ

当院の睡眠呼吸センターでは、簡易検査と精密検査（PSG検査）による診断およびCPAP治療を行っています。簡易検査（自宅でも可）で睡眠中の無呼吸の回数と酸素の低下を調べます。PSG検査は脳波や心電図もあわせて調べる精密検査で、1泊入院が必要です。もちろん、痛い検査ではありません。

CPAP治療とは、患者自身が夜間（睡眠中）に鼻マスクをつけて気道に空気を送り込んで陽圧にして、狭くなっている気道を広げる治療です。CPAP治療は安全性が高く、眠気などの自覚症状を改善することが証明されています。現時点ではSASに対する最良の治療法です。メタボリック症候群がある人は生活習慣の改善（食事療法や運動療法、節酒など）も必要です。重症SASによって心臓疾患や脳血管障害の予後が悪化するという報告やCPAP治療により心不全が改善した報告も多くあります。睡眠中に呼吸が止まるといわれる人、昼間の眠気が強い人、メタボ傾向の人は一度、睡眠時無呼吸について調べてみる必要があります。

当院の睡眠呼吸センターの外来は完全予約制（水曜日の午後）になっています。病院の総合窓口か地域医療連携室にご連絡いただければと思います。

睡眠呼吸センター長 植田 聖也

SAS
治療

更に
加速

それでもまだ吸いますか？

禁煙外来

喫煙には慢性閉塞性肺疾患の発症やがん、虚血性心疾患の発症リスクを増加させたりと様々な悪影響があり、テレビなどでもよく取り上げられていると思います。通院中の方は主治医から禁煙を勧められている、勧められ禁煙された方もいらっしゃると思います。また最近職場などでの禁煙についての報道を新聞などでご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。病院では当院も含め敷地内禁煙の病院が増えていきます。また公共施設などでも最近では禁煙のところが増えてきており、喜んでいる方も多いと思いますが、なかには喫煙できる場所が少ないと嘆かれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

なぜ喫煙場所が制限されてきているのでしょうか。受動喫煙というものがある理由です。受動喫煙とはご存知の方も多いでしょうが簡単にいうと「他人のたばこの煙を吸わされること」をいいます。

喫煙者が吸うたばこの煙を主流煙、その周囲の人が吸われる煙を副流煙と呼びます。

たばこには多種の化学物質、有害物質が含まれていますが、有害物質については副流煙のほうが多いともいわれています。

喫煙による害が明らかになるにつれ受動喫煙から身を守るための対策が求められるようになってきました。日本でも受動喫煙をなくすための対策がとられるようになってきています。健康志向の高まりや喫煙場所の制限もあり、「禁煙したいけどできない」方も増えておられるようです。

禁煙外来の目的は禁煙のお手伝いをすることです。現在2名の専任看護師とともに外来を行っています。健康保険の適応の場合と、適応にならず自費診療になる場合があります。

診療内容としてはまず問診や呼気一酸化炭素濃度測定を行います。喫煙の害、禁煙のメリット、たばこが止められない理由などをお話した後実際の禁煙方法について相談させていただきます。禁煙の方法としては環境改善や行動の変更、代償方法を説明申し上げたり、禁煙の補助として内服薬や貼り薬を処方することもあります。

毎週金曜日に外来を行っておりますので、希望される場合にはご予約いただければと思います。

呼吸器内科 佐藤 千賀



助っ人参上

東温市老人クラブが 授業協力

看護基礎教育では、臨床実践能力の向上をはかる教育が求められ、当校では臨床に近い状況で看護が学べるよう演習を多く取り入れる教育を行っています。

その一環として、去る平成21年12月10日木曜日、1年生の「基礎看護援助論演習」で、東温市老人クラブの6名の男性の方に模擬患者として参加して頂き演習を行いました。この授業は1年生が初めての臨地実習を行う前の授業として、患者を想定した事例に対して、今まで学んできた日常生活援助技術を実施するというものです。

この演習を企画する段階で、事例を演じる模擬患者は、学校の事を知っていただく意味でも地域の方に協力を得たいと考え、東温市老人クラブ事務局に連絡しました。そこで東温市老人クラブ会長様をご紹介頂き、お話ししたところ、地域で様々な活動を行っているので協力しますと快く引き受けて下さいました。

演習は、学生が6名の模擬患者に、洗髪、足浴、バイタルサインの測定、車椅子移送の看護技術を行うという内容です。学生にとっては初対面の方に挨拶から説明、援助の実施と臨床に近いリアルティある演習となりました。

援助の実施が終わって、模擬患者役の老人クラブの方々を交えて意見交換をしました。そこでは「床頭台いうてもそれは何かわからんぞ…」「身体を起こすときは、首から後ろ頭を手で沿うように支えてくれると安心して任せられる。」と率直な意見や「気持ち良かったよ。有り難



う。」とねぎらいの言葉も頂きました。そして「看護師となれるよう頑張ってください。そして、是非、東温市の医療を支える一員になって下さい。」と心温まる激励の言葉も頂戴しました。

演習を終えて、地域の方々の協力のもと多くの学びを得ることができました。また数々の頂いた言葉は学生の胸に響き、期待に応えていける看護師になるために頑張ろうという気持ちにもつながりました。東温市という地域の中にある学校として、このような地域の方々との交流による授業ができたことに心から感謝致します。



元職員の ご家族が

車椅子を寄贈

ある日、一人の患者様から、愛媛病院に車椅子を寄附したいとの申し出を頂きました。お話を伺いますと、その方の息子さんと、現在は、カナダのバンクーバーで介護用品の貿易会社を経営されている松岡評さんが、ご自身の会社で取り扱っている車椅子を愛媛病院の重症心身障害児(者)のために寄附をしたいというものでした。理由を伺いますと、お母様が当院の看護師として勤務しておられたことがあり、退職後当院に入院されたこともあるとのことでした。また、松岡さんのご実家が当院のすぐ傍にあったこともあり、子どものころは当院の敷地内が遊び場であったことや、ご自身も当院に入院された経験があることから、『少しでも愛媛病院に恩返しをしたい』との思いから今回のことを思い立たれたとのことでした。昨年11月末に一時帰国され、12月1日にお母様と一緒に来院され、車椅子2台を寄附して頂きました。

車椅子はコンパクトに包装されており、松岡さん自ら汗をかきながら一所懸命組み立てて下さいました。頂いた車椅子は日よけ、通気性、車輪の取り替えなど独自に工夫されている点や、取り扱い方を丁寧に教えて頂き、「なかなか外出しづらい患者さんのために役立ててほしい。」と

の言葉を添えて頂きました。

当日は、院長室で寄附を思い立った気持ちやカナダにおける医療の話、また、松岡さんの体験談をお話し頂きました。

なお、当日は、愛媛新聞社からの取材もあり、愛媛新聞(H21.12.4)に掲載されました。

院長をはじめスタッフ一同、感謝の気持ちと同時に大変喜んでおります。喜びと感謝の気持ちを込めて、感謝状を贈らせて頂きました。

これからも、大切に使用させて頂きます。本当にありがとうございました。



医療の輪



くぼた内科循環器科呼吸器科

繋がる地域医療連携

平成5年から、横河原線の牛淵団地前駅の近くで無床の内科診療所を開業しています。
昭和63年より平成2年まで愛媛病院に勤務していたことがありますが、開業してからも大変お世話になっています。
最近、地域医療の崩壊の危機が声高になりつつあり、病院と診療所のそれぞれの特徴を生かした、役割分担が重要となってきました。当院では在宅診療やプライマリ・ケア（初期治療）を中心に行っており、精密検査が必要と思われる患者さんは、適宜、専門設備を備えた病院へ紹介させていただいております。
今後ともよろしくお願いします。

施設名 くぼた内科循環器科呼吸器科
住 所 松山市北梅本町甲3288番地1
電 話 089-970-0011
FAX 089-970-0203
医 師 窪田 理
診療科目 内科、循環器内科、呼吸器内科
診療時間 午前9：00～12：30
午後2：30～ 6：30
木・土は午前のみ
訪問診療 木・土の午後
休 診 日曜・祝祭日



重症心身障害児(者)病棟 パンフレット完成

このほど、重症心身障害児(者)病棟では紹介パンフレットを作成しました。

平成18年10月に児童福祉法が改正、施行されて以後、同病棟への入院は「措置」から「契約」に変わり、それと共に多くの制度変更がなされました。この変更の影響は各方面に及び、今でも、情報が伝わりにくくなった等の声を耳にすることがあります。

また、県内の福祉関係者から「このような病棟があることをもっと早く知ったかった」「このような病棟のことをもっと知らせて欲しい」とのご意見を頂くこともあり、重症心身障害児(者)病棟では紹介パンフレットを作成することになりました。

3枚綴りの小冊子には重症心身障害児(者)への各部署からの取り組みの紹介、設備や入院環境の紹介、当院へのアクセス等をコンパクトにまとめ、読みやすいものになるように努めました。医療面では理学療法、作業療法、言語療法、呼吸リハビリなどの専門治療、

看護面では患者様・ご家族が安心して療養生活を送って頂くための工夫、療育面では日常生活の質の向上を図るための様々な活動について述べられています。また、患者様がにこやかに過ごされている様子や職員が患者様と一緒に生き生きと活動している様子を写真や記事にして、病棟での生活を分かりやすく伝えるようにしました。

今後、病棟ではこの冊子を県内各地の市役所、町役場、知的障害者施設、身体障害者施設等に配布し、広報に努めることにしています。

尚、当院外来ロビーにも置いてありますので、ご覧下さい。

活用してください！



医療安全 管理 だより

⑩こんなことしています



危険薬 研修

先日の誤薬により患者さんが亡くなるという悲しい報道をふまえて、間違うと重大な結果をもたらす薬剤についての研修会を開催しました。

今回の講師は当院の薬剤師で参加者は44名でした。最初のスライドは『人は誰でも間違える。しかし間違いを防ぐ（回避、予防する）ことはできる。』医療人として何度も聞いている言葉ではありますが「その通り」であり現場で間違いを防ぐこ

とが重要だと再認識しました。

研修内容は、危険薬とは何か、当院の現状について、他施設の事故事例についての順で行われ、事故事例については一つ一つ問題点を薬剤師の立場で話していただきました。その中で多いのが確認不足、ダブルチェックができていない、薬剤に関する知識不足ということでした。

医療過誤は条件がそろってしまえば誰でも起こしてしまう可能性があります。条件をそろえないために、医療安全の基本の遵守、環境の整備＝働きやすい環境、継続的な教育、研修、勉強会がとても大切であり継続した課題でもあるとのことでした。また危険薬誤投与防止のためのBestPractice16の提示があり、新たに取り組むべき課題も見えた研修会でした。



職場紹介

23病棟

23病棟は重症心身障害児（者）60名が入院されています。動ける患者様42名と寝たきりで医療度の高い患者様18名が入院されており、患者様は、15歳から65歳と幅広く、平均年齢は38.9歳です。病棟スタッフと療育指導室のメンバーで、「患者家族に満足していただける看護を提供する」「事故防止に努め安全で安心な看護を提供する」を目標に日々取り組んでいます。また患者様にとって病棟は、長期に入院されている為、「生活の場」ともなり安心して居心地良く生活できる入院環境を提供することも大切なこととなります。

H19年9月に新病棟に移転後、3回目のチーム編成を行い現在、「療育」「医療」の2つのチームに分かれ様々な取り組みを行っています。今回は療育を中心とするチームで取り組んでいる音楽やふれあいを楽しむ「ふれあい体操」について紹介します。

ふれ愛リラックス体操・ふれ足体操・ふれっ手体操・顔遊び体操、この四つの体操を「ふれあい体操」と呼び、身体全体と部分を音楽に合わせてふれたり動かしたりします。

この特徴は、自己身体意識（ボディ・イメージ）を高めるとともに全身のリラクゼーションが図れ、呼吸や血液循環、感覚器官、感覚神経、内臓の働きにもよい影響を及ぼします。

また、身体全体の感覚や身体各部分のつながりを明確に学び、自己身体像を再学習することと、変形拘縮の予防、運動動作の発達、コミュニケーションを育てる情緒面の安定にすぐれた働きをされると言われています。ふれあい体操時の患者様はこちよさや楽しさを感じて頂けるのか、笑顔が見られ、とてもリラックスしておられます。

これからも患者様の安全に配慮し、残存機能を維持できるよう、また患者様一人ひとりが笑顔で日常生活を送って頂けるように支援していききたいと思います。



「ふれあい体操」の様子

愛媛病院ニュースに掲載する写真、イラスト、原稿を募集しています。
お問い合わせ、投稿は「愛媛病院 管理課」までお願いします。
TEL.089-964-2411 Mail:puff@ehime-nh.go.jp



看護学校の頁

～学び舎から～

第6回卒業式

平成22年3月4日、第6回卒業式が挙行されました。

卒業式は高須賀東温市長様をはじめ四国がんセンターの新海院長先生、また多くのご来賓のご臨席を賜り、厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

西村学校長より卒業生31名一人ひとりに卒業証書が授与されました。

卒業は、一つの山を最後まで乗り越えたとき訪れるものです。31名が手にした卒業証書は、3年間の計り知れない努力が詰まっています。山を乗り越えた成長の証です。心から敬意を表します。卒業式の最後、卒業生全員が、支えて下さったそれぞれの方々に向き合い「有り難うございました。」と大声で言いました。その瞬間、会場から大きな拍手がわき上がりました。31名全員の感謝の気持ちが私たちの胸に響いた瞬間でした。そして31名は、成長した晴れ姿を見せてくれ、すがすがしく学舎から巣立っていきました。



付記 本校は本年も看護師国家試験全員合格の快挙を成し遂げました。

ちよつと言い放し

愛媛病院 ニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

初めまして。今回から編集に参加させていただくことになりました。自分が書いた記事が初めて掲載されるということ、少々いえ、かなりドキドキしています。

さて、これを書いているのは日曜日の清々しい朝なのですが、皆さん休日はどう過ごしているのでしょうか。家でゆっくり過ごしている人。ちよつと遠出をしてみる人。過ぎ方は色々あると思います。

私は一人暮らしを始めてもうすぐ一年になりますが、一人暮らしを始めた最初の数ヶ月は休日はほぼ一人で過ごしていました。部屋で一人、趣味に没頭できる時間を持てたことがとても嬉しかったのだと思います。たまに「遠出してみようかなあ。」などと思ったこともありましたが、慣れない土地を慣れない自分の車の運転で移動するのはとても不安だったのであつさり断念。

しかし、それが続いたのも本当に最初のうちだけで、実家にいた頃は帰宅すると当然のように聞こえていた「おかえり」の聲がぱったりと聞こえなくなると、ホームシックとまではいかないものの、やはり人恋しくなってくるものです。その頃から休日になると、友人を部屋に招いてみたり、逆に友人の部屋に遊びに行ってみたり、街へ出て友人と朝まで飲み明かしてみたり、遊び呆けてばかりか！と自分でも感じることはありますが、今や休日を一人で過ごすことの方が苦痛に思えてきたほどです。一人暮らしを経験して、家族の存在がどれほど大きなものだったかを改めて感じました。また毎週のように私の誘いに付き合ってくれる友人。本当にありがたいことです。

やっぱり人との付き合いって素敵だなあ；と久しぶりに日曜日を一人で迎えてみて感じました。さて、来週の土日はどう過ごそうか、と今からしっかりと予定を練っておこうと思います。

いちご



外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858

外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金
内科	循環器	船田 岩田(午前)	橋田	森岡 橋田(午前)	岩田 船田
	消化器	廣岡	古田	久保	久保(午前)
	呼吸器	阿部 佐藤(午後)	市木 渡邊	西村 植田	市木(午前) 三好(午後)
	神経	河野(第1・3午前) 橋本(第2・4午前) 第5週休診	宮崎(午前)		戸井
	専門外来 (完全予約制)	心臓リハビリ 橋田	心臓リハビリ 橋田	心臓リハビリ(午前) ペースメーカー外来(第2・4) SAS外来(植田) 神経難病(橋本) ペインクリニック(山内)	禁煙外来(佐藤・午後) 心臓リハビリ(橋田) じん肺外来(第1・3午前)
外科		鈴木		渡部(消化器外科・隔週) 澤田(呼吸器科・第1) 末久(呼吸器科・第3) 山下(呼吸器外科・第5) 泉谷(心臓外科・第2・4)	
整形外科 午前のみ診療	横手 宮本	曾我部	横手 曾我部	宮本	宮本(第2・4) 曾我部(第1・3・5)

※外来受付は午前8時30分から午前11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)は休診です。 2010年4月1日現在
※容体急変の心臓疾患・急性呼吸不全の患者様は24時間受け入れいたします。
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

当院の位置と交通



高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
 - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
 - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
 - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当院まで車で5分)

交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
 - バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
 - 自家用車 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
- 無料駐車場完備